

# 勘定科目の設定について

学校法人会計はあらかじめ設定してある標準の科目ので運用できますので、特に変更が必要のない場合は、そのまま運用してください。

ただし、“現金預金”の下にある小科目は、“〇〇銀行”のようにわかりやすい科目名に変更して運用し手ください。編集が終わったら“閉じる”ボタンを押してください。

## 1. らくらく会計の仕組み

らくらく会計では、通常の複式簿記と同じようにBS(資産・負債・純資産)科目とPL(収益・費用)科目で仕訳をおこない、資金収支計算書は自動作成しています。

そのため勘定科目の設定では、次のようなルールが必要になります。

基本となる約束だけを最初に説明して、そのほかの詳細なルールは必要な時にその都度説明します。

## 2. 基本となる科目の属性について

勘定科目の設定画面を開くと、次のような画面になります。

勘定科目(B/S,P/L)   資金収支の科目(C/F)		FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
10000	【資産の部】	0	1	0					
11000	固定資産	3	1	0					
11010	有形固定資産	2	1	0					
11020	土地	0	1	0				22	
11030	建物	0	1	0				22	
11031	(建物減価償却累計額)	0	1	0					

勘定科目 (B/S,P/L) と資金収支科目(C/F)について

- ✚ 資産・負債・純資産・収益・費用の科目の総称を“勘定科目”と約束します。
- ✚ 資金の動きを伴う収入・支出の科目を“資金収支科目”と約束します。
- ✚ 次に FlgA, FlgB, FlgC について

FlgB	1 B/S 科目 2 P/L 科目や C/F 科目
FlgC	0 借方科目 1 貸方科目
FlgA	0 仕訳を行う科目となります。 1 小科目の計の科目で、小科目欄に 1 がついた科目の計が入ります。 2 準大科目です。これより下の次に 2 になるまでの金額の計が入ります。 3 大科目です。これより下の次に 3 なるまでの金額の計が入ります。 4 資産の部合計などの計の科目で 4 までの金額を計が入ります。 5 負債及び純資産の部合計の科目です。 6~8 先頭からの集計金額です。 9、10 表示のための科目です。

### 3. その他の重要な約束

#### ✚ FlgG=1 の科目

これらの科目を相手に仕訳を行うと、相手科目は資金収支計算書に金額が入ります。

科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
12020	現金	0	1	0	1		1	10	
12030	預金 1	0	1	0	1		1	10	
12040	預金 2	0	1	0	1		1	10	
12050	預金 3	0	1	0	1		1	10	
12060	預金 4	0	1	0	1		1	10	
12070	預金 5	0	1	0	1		1	10	
13010	未収入金	0	1	0			1	11	
13020	未収入金 (会計期中)	0	1	0			1	10	

#### ✚ FlgH=10 または FlgH=20 の科目

これらの科目には、資金収支計算書では、“支払資金”として集計されます。

✚ FlgH が 11,12,13,14,18 は、資金収支計算書の資金調整勘定に関係する科目です。

✚ FlgG=500,505,510 の科目は、人件費内訳表の作成に関わるフラグです。

✚ 資金収支科目の FlgH=999 の科目は、内訳表の作成で省略になる科目です。

そのほかいくつかの約束がありますが、設定済みのものは変更しないでください。

次に勘定科目(B/S,P/L)と資金収支科目(C/F)との連携について説明します。

### 4. 収益・経費科目と資金収支科目との連携

資金収支計算書を自動作成するために、次のような科目連携が必要です。

#### ✚ 収益科目と収入科目の連携

科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
51020	授業料	0	2	1					
51030	入学金	0	2	1					
51040	実験実習料	0	2	1					
51050	施設設備資金	0	2	1					
51060	基本保育料	0	2	1					
51070	特定保育料	0	2	1					
51080	教材費	0	2	1					
51090	暖房費	0	2	1					

連番	科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	FlgG	FlgH
300	51020	授業料収入	0	2	1			
400	51030	入学金収入	0	2	1			
500	51040	実験実習料収入	0	2	1			
600	51050	施設設備資金収入	0	2	1			
700	51060	基本保育料収入	0	2	1			
800	51070	特定保育料収入	0	2	1			
900	51080	教材費収入	0	2	1			
1000	51090	暖房費収入	0	2	1			

## 費用科目と支出科目の連携

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)							
科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
58010	消耗品費	0	2	0					
58020	教材費	0	2	0					
58030	光熱水費	0	2	0					
58040	旅費交通費	0	2	0					
58050	奨学費	0	2	0					

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)						
連番	科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	FlgG	FlgH
10900	58010	消耗品費支出		0	2	0		
11000	58020	教材費支出		0	2	0		
11100	58030	光熱水費支出		0	2	0		
11200	58040	旅費交通費支出		0	2	0		
11300	58050	奨学費支出		0	2	0		

- このように勘定科目（収益・費用）と資金収支科目（収入・支出）科目は、科目コードで連携させることにより、次の仕訳を行うと正常に資金収支科目に金額が入ります。

現金預金     /     **授業料**                     ⇒     **授業料収入**  
 消耗品費     /     現金預金                   ⇒     **消耗品支出**

## 5. 資産・負債科目(B/S)と資金収支科目(C/F)の連携

- B/S科目と資金収支科目の連携は、基本的には総額集計になります。従いまして収入科目と支出科目との連携が必要になります。

ただし、“〇〇引当金”や“基本金”などのように、資金の移動の無い科目は連携しません。

- 例えば車両を取得した場合は、次のような仕訳になり

車両     /     現金預金             ⇒     **車両支出**

資金収支計算書には、車両支出として計上されます。

売却した場合は、次のような仕訳になり、

現金預金     /     **車両**                     ⇒     **設備売却収入**

資金収支計算書では、本来は“車両売却収入”になりますが、

学校法人会計では、次の何れかの科目に集計するようになっていますので、FlgHで連携させています。

車両の場合は、“設備売却収入”になります。

連番	科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	FlgG	FlgH
2800	71020	施設売却収入		0	2	1		22
2900	71040	設備売却収入		0	2	1		23
3000	71030	有価証券売却収入		0	2	1		24

またこれらの科目は、売却益が発生する場合がありますので、収益科目とも連携しています。

- “借入金”等の場合は、借入金が発生した時と、返済した時では資金収支計算書では収入や支出に個別の科目に対応しますので、何れも科目コードで連携させます。

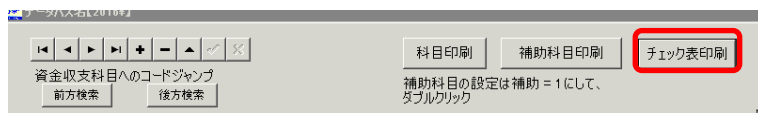
現金預金     /     **短期借入金**                     ⇒     **短期借入金収入**

**短期借入金**     /     現金預金                   ⇒     **短期借入金返済支出**

## 6. 非資金取引の科目について

減価償却費や各種の引当金繰入、基本金組入あるいはこれらの取崩などのように、資金の流れの無い科目は、資金収支計算書には反映させてはいけませんので、対応する科目はありません。

以上説明した資金収支科目との連携は、“チェック表印刷”のボタンを押して確認してください。



## 7. 科目の編集操作

次に、科目の編集操作について説明します。

画面の左上にこのような操作ボタンがでます。それぞれの機能は次の通りです。



- ✚ 科目の挿入はナビゲータの「+」をクリックしてください。
- ✚ 科目の削除はナビゲータの「-」をクリックしてください。
- ✚ 変更の確定は「レ」または、カーソルポインタを移動してください。
- ✚ 変更の確定前では、「X」ボタンで元に戻せますが、確定すると戻せません。
- ✚ 左右の三角記号は、カーソルポインタが移動移動します。

## 8. 科目の整列順

- ✚ 勘定科目（B/S及びP/L科目）は**科目コードの番号順**に整列します。

勘定科目(B/S,P/L)   資金収支の科目(C/F)		FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
▶ 10000	【資産の部】	9	1	0					
11000	固定資産	3	1	0					
11010	有形固定資産	2	1	0					
11020	土地	0	1	0				22	
11030	建物	0	1	0				22	
11031	(建物減価償却累計額)	0	1	0					
11050	建物付属設備	0	1	0				22	
11051	(建物付属設備減価償却累計額)	0	1	0					
11070	構築物	0	1	0				22	
11071	(構築物減価償却累計額)	0	1	0					

- ✚ 資金収支科目（C/F科目）は「**連番**」順に整列します。

勘定科目(B/S,P/L)   資金収支の科目(C/F)		FlgA	FlgB	FlgC	小科目	FlgG	FlgH
▶ 100	【収入の部】	9	2	1			
200	学生生徒納付金収入	3	2	1			
300	51110 授業料収入	0	2	1			
400	51120 入学金収入	0	2	1			
500	51130 実験実習料収入	0	2	1			
800	51140 施設設備資金収入	0	2	1			
700	51150 教材費収入	0	2	1			
800	51160 暖房費収入	0	2	1			
900	手数料収入	3	2	1			

## 9. 科目の挿入

- 科目挿入をしたい位置の一つ下にカーソルポインタを移動して、「+」をクリックしてください。次の例のように、一行の空白が出来ますので、ここに新しい科目を入れて下さい。
- 勘定科目の科目コード  
科目コードは前後の科目コード間の数値を入れます。科目コード順に整列します。  
科目コードは将来の追加に備えて詰めない方がよいと思います。
- 科目名を入れ、FlgA,FlgB,FlgC 等を入れますが、通常は一つ上のフラグと同一になります。



科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
12000	流動資産	3	1	0					
12010	現金預金	1	1	0					
12020	現金	0	1	0	1		1	10	
12030	預金1	0	1	0	1		1	10	
*									
12040	預金2	0	1	0	1		1	10	
12050	預金3	0	1	0	1		1	10	
12060	預金4	0	1	0	1		1	10	

- 資金収支科目と連携する科目は、資金収支科目にも同様な操作で挿入してください。

## 10. 勘定科目の削除

- 削除したい科目の位置にカーソルポインタを移動して、「-」をクリックしてください。確認表示の後に、削除が実行されます。
- 既に仕訳で使用した科目は削除しないで下さい。
- 資金収支科目と連携する科目については、必ず資金収支計算書（C/F）も連携する科目を削除してください。

・  
・

## 11. 小科目の設定方法

- 次の例は「現金預金」に小科目を設定した例です。
- 「現金預金」科目の FlgA を「1」にします。
- 次の例では現金～預金 5 までの合計金額が「現金預金」に集計されます。

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)			私学財団基礎調査科目設定				
科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科目	FlgG	FlgH	消費税
12000	流動資産	3	1	0					
12010	現金預金	1	1	0					
12020	現金	0	1	0	1		1	10	
12030	預金1	0	1	0	1		1	10	
12040	預金2	0	1	0	1		1	10	
12050	預金3	0	1	0	1		1	10	
12060	預金4	0	1	0	1		1	10	
12070	預金5	0	1	0	1		1	10	
15000	未収入金	0	1	0			1	11	
15010	未収入金(会計期中)	0	1	0			1	10	
15020	貯蔵品	0	1	0					

【注意】資金収支科目に対応科目がある場合は、資金収支科目にも必ず小科目を付けてください。

## 12. 補助科目の設定

- 補助科目を付けたい科目の「補助科目」に1を入れると行が赤色にかわります。
- この行でダブルクリックをすると、次のような補助科目の設定画面が出ます。

Hojokamoku

削除 閉じる(O)

コード番号は001,002,003,.....

科目の追加は[↓]キーを押してください。

コード	補助科目名
001	〇〇銀普通123
002	〇〇銀普通555
003	□□金庫
004	郵便局
▶005	農協

- 補助科目コードは、001からの連番で設定してください。
- 補助科目の名称は、全部門に共通する名称になりますが、部門（経理）区分固有の名称にしたい場合は、次の”会計別名称変更”のボタンを押して名称変更をしてください。部門別に名称を変える必要が無い場合は”しない”にしてください。勘定科目の設定画面を閉じると、個別に設定した名称は消えて共通の補助科目名称になります。

補助科目の設定

部門別の名称

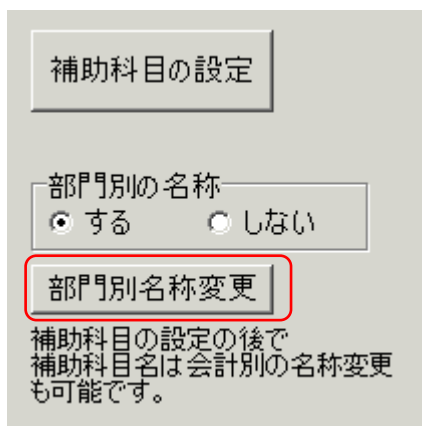
する  しない

部門別名称変更

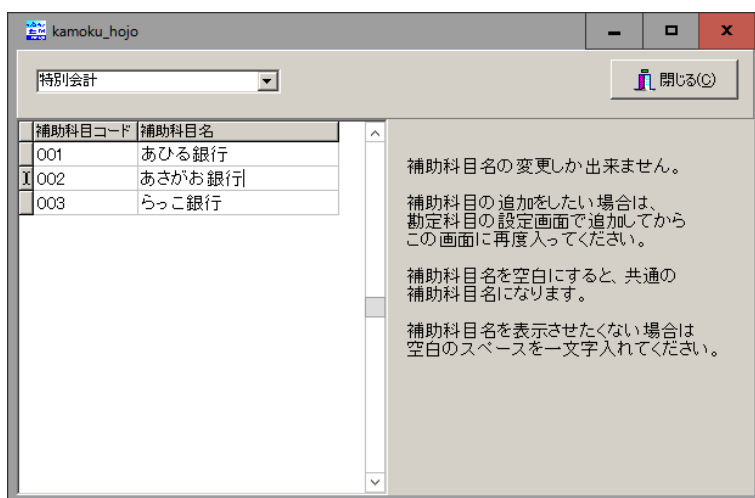
補助科目の設定の後で  
補助科目名は会計別の名称変更  
も可能です。

### 13. 部門別の補助科目名

- 勘定科目は、すべての部門で統一名称になりますが、補助科目は唯一部門ごとに独自の補助科目名にすることが出来ます。
- しかし、部門別の独自の名称にたくない場合は、“部門別の名称”を「しない」に選択して、勘定科目の設定画面を閉じると、すべての部門の補助科目名は統一されます。
- 部門別の名称変更は、下記のボタンを押してください。



- 部門別の名称変更は、この画面で行ってください。



#### 【補足事項】

- 先に補助科目を登録しないと補助科目名の変更はできません。また、この画面での補助科目の追加出来ません。
- 補助科目を設定したのちは、会計別の名称が優先されます。”勘定科目の設定”で設定した名称に戻したい場合は、”部門別名称変更”のボタンを押して補助科目名を空白にして画面を閉じると元に戻ります。

## 14. 勘定科目の資金収支科目の連携の確認

勘定科目を編集したら必ず資金収支科目との連携を確認してください。

### ✚ 資金科目へのコードジャンプについて

例えばコード 21020「長期借入金」の科目にカーソルポインタを移動して、コードジャンプの後方検索を実行すると、連携している資金収支科目「長期借入金収入」の科目にジャンプし、もう一度後方検索のボタンを押すと、「長期借入金返済支出」にジャンプします。



このようにこのコードジャンプは勘定科目と収支科目の連携の確認がすばやく出来ます。

ただし、FlgH で連携させたものは、このジャンプは機能しませんので、次のチェック表で確認してください。

### ✚ チェック表の印刷ボタンを押すと、このような連携を確認する表が出ます。

コード	勘定科目名	連携する資金の借方科目					連携する資金の貸方科目										
		A	B	C	D	G	H	A	B	C	D	G	H				
10000	資産の部	9	1	0													
11000	固定資産	3	1	0													
11010	有形固定資産	2	1	0													
11020	土地	0	1	0		22	土地支出	0	2	0		施設売却収入	0	2	1		22
11030	建物	0	1	0		22	建物支出	0	2	0		施設売却収入	0	2	1		22
11031	(建物取得償却累計額)	0	1	0													
11032	建物付属設備	0	1	0		22	建物付属設備支出	0	2	0		施設売却収入	0	2	1		22
11033	(建物付属設備取得償却累計額)	0	1	0													
11034	構築物	0	1	0		22	構築物支出	0	2	0		施設売却収入	0	2	1		22
11035	(構築物取得償却累計額)	0	1	0													
11036	教育研究用機器備品	0	1	0		23	教育研究用機器備品支出	0	2	0		設備売却収入	0	2	1		23
11037	(教育研究用機器備品取得償却累計額)	0	1	0													
11110	管理用機器備品	0	1	0		23	管理用機器備品支出	0	2	0		設備売却収入	0	2	1		23
11111	(管理用機器備品取得償却累計額)	0	1	0													
11130	図書	0	1	0		23	図書支出	0	2	0		設備売却収入	0	2	1		23
11140	車両	0	1	0		23	車両支出	0	2	0		設備売却収入	0	2	1		23
11141	(車両取得償却累計額)	0	1	0													
11160	建設費積立	0	1	0			建設費積立支出	0	2	0							
11170	特定資産	2	1	0													
11180	第2号基本金引当特定資産	0	1	0			第2号基本金引当資産支出	0	2	0		999 第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	2	1		999
11190	第3号基本金引当特定資産	0	1	0			第3号基本金引当資産支出	0	2	0		999 第3号基本金引当特定資産取崩収入	0	2	1		999